

新しく生まれる：神の国を見、神の国に入り、その中で生きる ヨハネによる福音書 3:1-11

1. さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなされるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」 (3:1-2)
 - a. パリサイ派というのはイエス時代の宗教指導者の一派で、保守的な神学を持ち、その行いは律法主義に基づき、神の約束成就の望みを律法においていた。使徒パウロはクリスチャンになる前はこの派に属していた。
 - b. ニコデモはパリサイ派の高い身分にあり代表として来ていたために「私たちは」という言い方をしたのかも知れない。
 - c. イエスが行ったしるしは正真正銘の事実であり、指導者たちを含め皆の注意を引いた。しかし彼らは自身の目で見ただけにもかかわらずイエスを認めず、ここでもニコデモは夜隠れるようにしてイエスのもとを訪れている。

2. イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」 (3:3)
 - a. 「まことに、まことに」とはイエスが特に強調される時に使われた言葉である。ヨハネだけがこの言い方を福音書の中で使っている。「アーメン、アーメン」と同義である。
 - b. 新しく生まれることは、神の視点から見るための必須条件である。新しく生まれなければ神の国を理解することはできない。
 - c. 興味深いことに創世記 3 章の人類墮落の記事では、禁断の実を食べれば目が開かれると蛇がそそのかした。しかし蛇はそれがもっと大切なものを見失う結果になるという部分を都合よく省いている。イエスはこの人間の立場を、新しく生まれて再び「神の国を見る」(ギリシャ語では未来形でなく現在形)ことによって逆転させるために来てくださった。

3. ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができましょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」 (3:4-5)
 - a. ニコデモは新しく生まれる可能性と方法についておもしろい質問をしている。私はニコデモは純粋な求道者だったと思う。彼はイエスを論ばくしようとしたわけではなく、純粋に真理を追究していた。誰でも真剣に真理を追究するならばいつか必ずイエスと出会うことができる。イエスは真理だからである。
 - b. 新しく生まれることはコインの表裏のようなものである。一つの面は水であり、ここではバプテスマを指す。バプテスマとは儀式的なものだけではなく霊的な意味においてである。バプテスマは自分自身に死んでキリストとともに新しいいのちとしてよみがえることである(ローマ 6:3-4)。まず自分自身に死ぬ(古い自分を悔い改める)ことをしなければ新しく生まれることはできない。
 - c. コインのもう一方の面は聖霊を受け入れることである。悔い改めはコインの片面、もう一方は神の霊で、どちらも同じように大切である。使徒 19:2-4 は、水によるバプテスマの後、自分の意思で聖霊を受け入れることの大切さを語っている。

4. 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。．．． 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」 (3:6, 8)
 - a. 肉によって生まれた者は神の国に入ることができない。クリスチャンとしても人生の中で一時的なものと永遠のものを見分けられるようになることが大切。その区別が付かないと人生の多くの時間を肉から出たものに費やして無駄にしてしまう(1 コリント 3:14-15)。
 - b. 御霊によって生まれた者は風と似た性質がある。(ギリシャ語とヘブル語では風と御霊は同じ言葉が使われている。) 神によってコントロールされている風と同じように、その人生は神によって支配され、決まったルールや状況によって左右されるものではない。
 - c. 新しく生まれると神によって動かされ、神のために働き、永遠に目を向けて神の栄光のために生きることができるようになる。